

## 「第2回新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏共生ビジョン懇談会」会議概要

- 1 日 時：平成28年12月20日（火）午前10時～正午
- 2 会 場：新発田駅前複合施設「イクネスしばた」1階 多目的室1
- 3 出席者：桑原会長、高澤副会長、森委員、加藤委員、平川委員、水戸部委員、  
田中（厚）委員  
【事務局】新発田市みらい創造課：佐藤課長、野崎課長補佐、高山係長、山田主任  
胎内市総合政策課：井畑課長、錦織係長  
聖籠町総務課：高松課長補佐、久保主事

### 4 会議概要 ※次第に沿って進行 司会進行：事務局

#### ○開会

※事務局から説明（当日の欠席者、委員紹介、資料確認）

#### ○議事

#### 「1 定住自立圏形成に係る連携事業について」

##### 【会長】

※本日の懇談会の進め方について説明

##### 【事務局】

※第3回懇談会の進め方について説明

#### < I 生活機能の強化に係る事業説明 >

##### 【事務局】

※資料1 - ①の説明（配布資料により説明）

##### 【会長】説明後の意見確認

【委員】子育て応援カード事業は、子どものいる全世帯に配布するのか。

【事務局】子どもがいる世帯が対象であり、申請した世帯にカードを発行する。

【委員】聖籠町の周知及びPRはどのように行っているのか。

【事務局】現在、聖籠町では検討中であり、来年、再来年には結論を出したいと考えている。

【委員】申請という処理は、対象者が知らなかったなど、認識していないことがあるため、周知方法を検討してほしい。

【事務局】聖籠町は、新発田市と胎内市の状況を確認しながら連携を進めていき、周知方法は広報、ホームページを中心に行っていく予定である。

【委員】子育ては忙しく申請に行く手間が煩わしい。

【委員】経済的なサポートが必要な方が、申請ができず救ってあげられないケースは問題である。申請制度によって、本来、困っている人が漏れていないのか心配である。

【委員】事業者でも予算化を行う必要があるため、事業者側の立場も考えて連携を取る必要がある。

【事務局】圏域の取組を全圏に広めていくために、事業者がどの程度対応できるのかなど、十分に内容を詰めが必要である。使いやすい制度としていきたい。

【事務局】お茶を出すなど、サービスの内容が事業者によって異なっている。サービス内容を使う側にしっかり伝えていただきたい。

【委員】短期的な取組でなく人口を増やし、現在の子ども世代がここに住んでくれるなど、将来的にプラスになる取組や考え方を共有していくことが大切である。

【委員】赤ちゃん駅の整備について、現在使用していない箇所は閉鎖してもよいと思う。設置すればいいということではない。不審者や防犯カメラがなく、授乳を行うだけの場所がある。人気がないようなところは片付け、安心してできる場所が必要である。

【委員】どの場所に設置するか、稼働率などを参考に必要な場所を検討することである。

【委員】赤ちゃん駅という名前も悪いのではないか、わかりやすい名称を付ける必要がある。

【委員】そもそも誰のニーズなのか。

【会長】昔は家で子どもを見てくれる人がいたが、核家族化が進み、子ども連れで出かけるケースが多くなったが、その際の問題である。最近では男子トイレでも場所が確保されているが、安全な場所、使うであろう場所に設置していくことが必要であり、また、このようなサービスが地域の魅力になる。

【委員】どのような場所を想定しているのか。

【事務局】公共的な施設等、体育館にも設置されている。安全面でも、子育て世代が集まれば安心感につながる。民間では経費負担になるため、どのように折り合いを付けていくかである。今は、いろんな場所に設置しサービスを向上していく側面が強い。

【委員】赤ちゃん駅の看板設置がPRに繋がる。子どもを持つ家庭に優しいまちになる。

## <Ⅱ結びつきやネットワークの強化に係る事業説明>

【事務局】

※資料1 - ②の説明（配布資料により説明）

【会長】説明後の意見確認

【委員】「公共交通」の「期待される効果」の中に、効率的な運行で経費を抑制するとあるが、効率的に悪いところの人が公共交通を利用している。通勤通学等でバスの見直しを行った場合、高齢者等の利便性が低下すると思うがどのような内容か。

【事務局】持続可能な公共交通体系を維持していくことが事業の目的である。経費の節減、一人あたりの経費を目標としたが、可能な限りお金のかからない効果的な路線を模索していくことが本来の考え方である。

【委員】乗合という部分で効率を上げていくためには、バス以外の部分も模索した方が、経費節減にもつながる。少しバスだけに集中している部分がある。

【事務局】胎内市ではデマンド交通を推進しているが、人口減少や高齢化の中で効率性、採算性は上がらないが、どのように市民の足を確保していくかという問題提起をしていかないとピンとこない部分がある。調整させていただきたい。

【委員】様々な交通手段を導入することで、利便性を失わないようにしてくる必要がある。

【事務局】公共交通の運営が厳しい状況である。胎内市はデマンド交通を行っているが、定住自立圏では新発田市とどのような連携ができるか、また、聖籠町ではエコバスを行っているが、新発田市のあやめバスとどのような連携ができるかなど調整を進めている。現在、公共交通計画を策定しているが、定住自立圏では公共交通を充実させていきたいと考えている。

【委員】病院だけを回る交通等もいいと思う。

【委員】スポーツ関連になるが、大会が増えると保護者が大変である。同じ時期に同じような大会が重なっている。調整していただきたい。

【事務局】大会の性質、歴史背景があるため、十分な調整が必要である。検討させていただきたい。

【委員】3市町が一緒にやることに意味がある。良い提案を出していただきたい。

### <Ⅲ圏域マネジメント能力の強化に係る事業説明>

【事務局】

※資料1 - ③の説明（配布資料により説明）

【会長】説明後の意見確認

【委員】産学官との連携と圏域就職支援事業があるが、区別がわからない。圏域就職支援事業は「圏域マネジメントの強化」に区分されないのか。

【事務局】1番目は雇用という視点がある。3番目は雇用の他にも、人材育成という視点を置いている。

【委員】短大と連携する事業について、具体的に説明がないと体系を分けた理由が見えてこない。

【事務局】短大と連携する事業については想定が3つある。1つ目は地域とのふれあい、地域貢献、2つ目は生徒の地元定着促進、3つ目は圏域企業内での人材確保を総合的に進めながら人材育成を行っていきたいと考えている。

【委員】聖籠町東港工業団地でかなりの企業数を持っている。聖籠町が連携しないのはなぜか。

【事務局】町独自の育英貸付制度を行っており、その事業と職能短大との連携事業で調整しづらい部分がある。現在でも学生が行うイベントの後援等を行っており、連携をしないという訳でない。事業を実施していく中で、町の政策と調整がつかないためである。将来的に必要性があれば行っていく予定である。

【委員】KPIが就業率になっていることから、事業の特性を活かしたKPIが望ましい。

【事務局】短大では地域課題に向けて取り組んできたが、それほど広がりが無い。この機会に行政と一緒に地域課題に取り組んでもらいたいと思っている。商工会議所で協議会を持っているが、そこが主体となり実施していく。また、学生と企業との共同研究の実施や、経済的理由により辞めざるを得ない学生の状況があるため支援をしていきたい、育っていただきたいという趣旨がある事業である。

【事務局】再度、KPIや役割分担について整理をしていきたい。

※<Ⅰ生活機能の強化に係る事業>及び<Ⅱ結びつきやネットワークの強化に係る事業>について意見等の再確認

【委員】「農業振興」について、各市町で開催するイベントにおいてPR活動の記載があるが、聖籠町では農業祭になるが、各市町のブースを設けるのか、広域圏のブースか、どのように行うのか。

【事務局】事業の内容は検討中であるため、意見として担当課へお伝えする。

【委員】「雇用促進」の取組で、企業への就業支援と雇用機会の拡大を図るとあるが、「起こす業」があってもいいのではないか。定年まで勤め上げと思っている10代は少ない。また、もう一つの提案は、先にも述べた「分かりやすくすると、利用しない人には分かりにくさ」の話をしたが、ピクトグラム（絵文字）を用いるとよい。

【事務局】就職支援の「起業」については、可能かどうか担当課に話してみたいと思う。

【委員】雇用促進は、生活を営む仕事を得ることが重要である。現在のインターンシップのみでは手薄であるため、将来を見据えながら定住自立圏で新たな提案が出てくることが望ましい。

【委員】胎内市は有害鳥獣対策をどのように行っているか。

【事務局】人と獣の境界がボーダーレスになっている。集落がどのように山に接し、人の力で何かをしていく必要がある。集落や営農組織の力を活かし追い出すだけでなく、他の方策のために知恵を出していく必要がある。

【委員】駆除を行う人達がいなかったことが問題となっており、今後、課題となる。

【会長】今回、発言できなかったことなど、第3回の懇談会でお願いしたい。次回の懇談会が、今年度、最後の懇談会になるため、より良い提案をいただきたいと思う。

※終了

【事務局】第3回懇談会の日程等の説明及び確認

○開会